

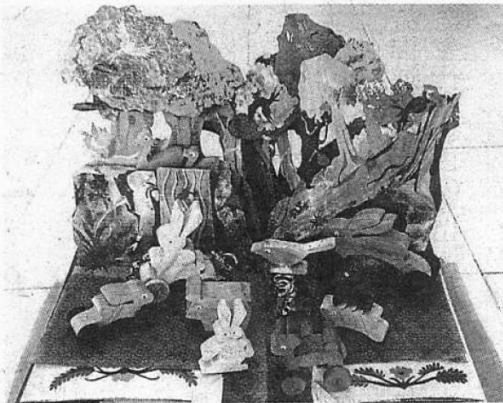
困窮世帯にクリプレ

関東カイリック

故人の思い 全国へバトン

関東カイリック(田村繁樹社長、埼玉県東松山市)はクリスマスに合わせ、地域の生活困窮世帯の子供たちに、木のおもちゃとお菓子の詰め合わせをプレゼントしている。木のおもちゃは、栃木県鹿沼市の故加藤清さんが栗野町(現鹿沼市)役場を退職後、施設に寄贈するため30年間にわたり作り続けていたもの。加藤さんの遺族からMONSTRUM Japanの増田美智雄代表に、増田氏から関東カイリックの田村純取締役へとバトンが繋がった。更に全国にも広がっている。加藤さんは旧栗野町役場を55歳で退職。それから30

年間にわたって木のおもちゃを作り、地域の保育園や幼稚園、小学校に寄付してきた。加藤さんが亡くなった後、遺族は作業場に残されていた6千個のおもちゃを増田氏に寄贈した。増田氏は自分でも子供た



木のおもちゃは故加藤さんが30年間にわたり作り続けていたもの

ちにおもちゃのプレゼントをしながら、関東カイリックの田村氏に1千個を託した。関東カイリックが木のおもちゃとお菓子をプレゼントするのは、鴻巣市のNPO法人(特定非営利活動法人)「ここにこmas」(高橋亜希代表)に登録する子供たち。同社は同法人のフードパントリーや子ども食堂の活動に、無償輸送で協力している。プレゼントは12月17日に子

供たちの手元に届いた。更に、田村氏を介し、日本トラックドライバーク育成機構(JTDO、酒井誠代表理事)のマナーとモラルの講師の田巻華月、佐藤晴美の両氏や、寒河江物流(山形県寒河江市)の後藤智樹社長にもバトンが繋がった。おもちゃは、各氏の協力で北は北海道、南は福岡まで贈られる。

田村氏は「自分でできることは小さいかも知れないが、仲間たちの協力で多くの子供たちに加藤さんの思いが込められたおもちゃを贈ることができ、本当にうれしい」と話している。

(辻本亮平)